

教科: グループ学習(社会)	学部: 小・中・高・他()	名前: 和泉 太郎
児童生徒: 小(低・中・高)・中(1・2・3)・高(1・2・3)	授業班: 実態別グループ	クラス・学年全体 (6名)
児童生徒の実態: 学年では一番軽度のグループ。全体的に小学校2~3年生程度の認知理解。基本的な四則演算や全体への指示理解は一定できる(口頭での指示理解は苦手)。地域校からの進学が多く、入学当初は、できないことや間違えることに対する不安が大きかった。また学習に対する意欲や家庭での生活経験には課題があり、興味関心の対象も限られている。		

ご自身が行われている項目にチェックをつけ☑、具体例があれば入力してください。
 取り組み途中や、まだ取り組んでいない項目は空白でかまいません。

1 安心できる教室環境

<input checked="" type="checkbox"/>	子どもが授業に集中できるよう刺激を減らしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業に関係のあるものだけを出している(必要ないものは見えない) <input checked="" type="checkbox"/> 黒板まわりは必要な掲示物のみ貼り、片付いている。 <input checked="" type="checkbox"/> 座席から見やすい位置に黒板やTVを置いている。 (具体例) 他学部や特別教室を利用しているが、基本的に刺激は減らし、片付いた環境である。気になって触る生徒がいるので、GIGAiPadは使用時のみ配布している。
<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの動線が確保されている。 (具体例) 教員机への課題などを提出する、TVや覚醒と席など一カ所に集まるなどの動線が確保され、教室前方や各座席で発表する生徒の方向へ椅子を向けたり移動したりできる教室配置になっている。
<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの特性や見え方、子ども同士の相性を考えた座席配置や教員配置になっている。 (具体例) 黒板が見える座席に設定しているが、相性による座席配置はしていない。
<input checked="" type="checkbox"/>	失敗や、間違っても大丈夫な、安心して授業に参加できる、発言やチャレンジできる雰囲気づくりをしている。 (具体例) 人的環境のUDを意識し、「失敗したり、間違ったりしても大丈夫」と繰り返し伝えている。また間違いや失敗した際は、「次からはどうしたらいいのか」を一緒に考えるようにしている。グループ全体でもできないことや失敗を非難する雰囲気はなく(指導者も間違える姿を見せる場面を設定している)、それぞれの意見をすぐ否定しないよう指導者が生徒同士の間を取り持ったり、説明や言い換え、感情の言語化などをしたりするように意識している。生徒の積極的な面も少しずつ増えている。
<input checked="" type="checkbox"/>	その他 (具体例) 入学後はお互いの詳しい紹介を知る機会を、また導入時の「トーキングゲーム」などでお互いのことを知ったり、否定せずに話を聞いたりする機会を設定している。

2 分かりやすい授業

今年度の取り組みだけでなく、過去に取り組まれた内容についても記載していただいて構いません。

<input checked="" type="checkbox"/>	学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチで授業の見通し <input checked="" type="checkbox"/> 授業の流れを提示している。 <input type="checkbox"/> 活動の見通しを持って <input type="checkbox"/> 活動の手順表などを視覚的に示している。 <input type="checkbox"/> 「本時の目標(めあて)」を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 最後に「振り返り」を行っている。 (具体例) 授業の流れや課題などの内容はTVや板書で視覚的に提示しているが、生徒の実態上指示理解の力をつけるため、口頭での説明で伝える場面を設定している。毎回の授業の流れは変則的であるが、授業の最後5分は振り返りノートを書く時間に設定しており、生徒が「先生振り返りノートの時間やで」と伝えるなど授業の見通しは持っているようである。
<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが主体的に活動できる時間や体験する場面を設定している <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの実態に合わせた複数の課題を用意している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの興味関心のある題材を活用している。

(具体例) 講義型ではなく、なるべく子どもが体験したり、活動したり、発表したりする場面を設定している。GIGA iPad を活用した作文やインターネット検索、スライドづくり、NHKforSchool などの動画、振り返りノートをよく活用している。生徒による課題取り組みの実態やスピードが異なる場合には+αの別課題の用意や、個別の配慮(素早く文章を書くのが苦手な子は GIGA iPad を使用するなど)をしている。調べ学習などの際は、子ども自身が好きな題材を選択する場面を設定している。生徒の作品(作成したスライド)などは廊下に掲示し、教員や友だちから声をかけてもらい成果を実感する、本人が内容について説明する機会につなげている。

- ☑ 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している。
- ☑ 卒業後の進路やキャリアプランニング・マトリックスを意識した内容を設定している。
- ☑ 子どもの自立活動の目標や手立てを意識した内容を設定している。
- ☑ 学校生活や家庭生活との繋がる内容に取り組んでいる。
- ☑ 授業で学んだ内容が、将来や生活にどう繋がるのかを説明している。

(具体例) 知識理解だけでなく、子どもたちが選択・決定することや、聞いた・調べた情報をまとめて伝えること、ICT 機器を活用すること、学習内容を振り返りすることなどキャリア教育や自立活動、日常生活や卒業後の進路の課題とつながった内容を意識して授業計画を考えて、それらと関わる内容を重点的に取り組んでいる(社会では具体的な法律の内容、お金や福祉制度についてなど)。シラバスの内容に加えて、実態に応じて SST 的な内容にも取り組んでいる。子どもたちにも、学んだり取り組んだこととつながるのかを都度説明している(振り返りノートなどは高等部実習日誌

- ☑ その他※具体的な教材例があればぜひ紹介ください。
(具体例)

①子どもたちが自分の思いを振り返る、伝えるための取り組み
「振り返りノート」、「スライドづくり(例、都道府県調べ)」

②ICT 機器の活用


「Google クラウド(資料(プリント PDF)や課題(ドキュメント、Keynote)の配布)」、「NHKforSchool での動画資料」、「Google フォームでテスト(何度も繰り返しチャレンジできるので定着につながる)」

📄 社会02 国や社会のきまり

辰巳祐幸・6月24日 (最終編集: 6月24日)

 02_国や社会のきまり.pdf PDF	 憲法って、何だろう? 憲法って、何だろう? (憲法... PDF
--	--

👤 クラスのコメント

 クラスのコメントを追加...



③実際に体験することで理解や納得につなげる

「子ども六法すごろく(具体的な法律内容についてゲーム感覚で学ぶ)」、「お金(1週間の昼食メニューから、すぐに増える消費額を感じる)」

具体的な教材の例があればぜひ紹介ください。教材の画像があれば貼りつけてもらえると大変有難いです。当日に実物の教材を持ってきていただくのも大歓迎です。



④様々な角度から知識のネットワークを広げていく

「さまざまな都道府県の資料スライド配布（観光名所、グルメ、世界遺産、地域限定のお菓子、ゆるキャラ、駅弁、プロスポーツ、アニメの聖地、伝統工芸、企業、祭り、有名人）」



3 伝わる教員の発信

<input checked="" type="checkbox"/>	<p>声の大きさや音量（マイク・音楽）、話すスピードやタイミングを工夫している。</p> <p>（具体例）構造化したわかりやすい伝え方を意識している。生徒が注意集中できるように、話すスピードや声量、緩急などは意識している。</p>
<input checked="" type="checkbox"/>	<p>指示や説明、発問の工夫（平易な言葉や言い換え、子どもの思考や感情の言語化、伝える量の調整など）。</p> <p>（具体例）一度に伝える説明の量などは多くなりすぎないように気をつけている。課題に取り組む際は、見本を提示したり、一緒に手順を確認したりするようにしている。</p>
<input checked="" type="checkbox"/>	<p>視覚的にわかりやすく提示している。（実物>写真>絵・イラスト>シンボル>文字>言葉）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの実態に合わせた実物提示や視覚支援、口頭説明などを行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ICT 機器を活用している。</p> <p>（具体例）課題の説明やプリント、授業で出た意見などは、板書や TV を活用し、視覚的にわかりやすいようにしている。生徒の実態上、あえて口頭のみで説明する場面も設定している。</p>
<input checked="" type="checkbox"/>	<p>その他</p> <p>（具体例）子どもの好きなものや興味関心のあるものなるべく題材に設定している。子どもの知識のネットワークが広がるよう、他教科や以前の学習内容との関連を説明するようにしてる。学習した内容や子どもの作品などを廊下に掲示し、授業以外でも学習内容に触れる場面を設定している。</p>

4 協力できるチーム

<input type="checkbox"/>	<p>指導略案などを活用して、サブ担当者に授業のねらいや内容、教員の動きを共有している。</p> <p>（具体例）主担1人でサブ教員はいない。</p>
--------------------------	---

☑	<p>学年会や担任とのやり取りなどで子どもの情報（特に支援が難しい、集中が続かないなど）を共有している。</p> <p>（具体例）授業中の生徒の様子や振り返りノートの内容などは学年会や個別に担任と共有している。生徒の作品（作成したスライド）などは廊下に掲示し、教員や友だちから声をかけてもらい成果を実感する、本人が内容について説明する機会につなげている。作品や振り返りノートはタイミングが合えば、懇談等で保護者に見てもらい、子どもたちの変化や成長を見てもらうようにしている。</p>
☑	<p>その他</p> <p>（具体例）様々な角度から学習して必要性を子どもが実感できるよう、取り組み内容（福祉制度など）は他教科（道徳・家庭科など）とも共有している。</p>

※このワークシートを5部印刷して、研究協議②へ持参してください。